

# 九州大学（伊都）文系地区基本設計業務

## 審 査 講 評

平成24年 8月 9日

九州大学建設コンサルタント選定委員会

# 目 次

1. 業務概要	1
(1) 業務名	1
(2) 業務の概要	1
(3) 履行期限	1
2. 経緯	1
3. 技術提案書の特定方法	1
(1) 特定方法の概要	1
(2) 評価項目及び評価基準について	1
(3) 選定委員会による審査	2
4. 参加資格の確認	2
(1) 参加資格の確認の概要	2
(2) 応募状況及び参加資格の確認	2
5. 提出要請者の選定	2
(1) 提出要請者の選定の概要	2
(2) 提出要請者選定結果	2
6. 技術提案書の特定	3
(1) 技術提案書の特定の概要	3
(2) ヒアリングの実施	3
(3) 技術提案書の特定	3
(4) 技術提案書の特定結果	3
7. 閲覧	5
8. 審査講評	6
(1) 総評	6
(2) 個別講評	6

## 1. 業務概要

### (1) 業務名

九州大学（伊都）文系地区基本設計業務

### (2) 業務の概要

伊都キャンパスイーストゾーン文系地区(9.1ha)における施設計画、配置計画及び設備計画、外構計画を行う。

施設の規模は、延べ床面積約 85,000 m<sup>2</sup>

### (3) 履行期限

平成25年 6月28日（金）

## 2. 経緯

技術提案書の特定までの主な経緯は、以下のとおりである。

平成24年 4月24日	参加資格等について決定
平成24年 5月16日	選定基準、評価基準について決定
平成24年 5月29日	手続開始の公示
平成24年 5月29日～平成24年 6月8日	参加表明書受付
平成24年 5月29日～平成24年 7月10日	説明書等に関する質問受付
平成24年 6月15日	提出要請者について選定
平成24年 6月18日	提出要請者選定結果の通知
平成24年 7月27日	説明書等に関する回答閲覧期限
平成24年 7月30日	技術提案書の提出期限
平成24年 8月7日	ヒアリングの実施 技術提案書の特定
平成24年 8月9日	技術提案書特定結果の通知及び公表

## 3. 技術提案書の特定方法

### (1) 特定方法の概要

文部科学省からの通知（公募型及び簡易公募型プロポーザルの実施について－平成11年3月31日文教施設部長通知文施指第174号）に準拠し、公募型プロポーザル方式により手続きを行い、技術提案書の特定を二段階で実施した。

まず、参加表明書により、参加資格を確認し、提出要請者の選定基準に基づき、技術提案書の提出要請者を選定した。

次にヒアリングを実施し、技術提案書の内容の審査を行い、評価基準に基づき、技術提案書を特定した。

### (2) 評価項目及び評価基準について

評価項目及び評価基準については以下のとおりである。

- ・技術提案書の提出を求める者を選定するための基準  
担当予定技術者の能力【審査のウェイトは9分の5】  
資格及び実績、同種又は類似業務の実績件数

技術提案書の提出者の能力【審査のウェイトは9分の4】

技術者数、技術力、同種又は類似業務の実績件数

・技術提案書を特定するための評価基準

担当予定技術者の能力【審査のウェイトは6分の2】

資格及び実績、主要業務の実績、同種又は類似業務の実績件数及び実績内容

技術提案書の提出者の能力【審査のウェイトは6分の1】

技術者数、技術力、主要業務の実績、同種又は類似業務の実績件数及び実績内容

業務の実施方針【審査のウェイトは6分の1】

業務内容の理解度、実施方針の妥当性、実施手法の妥当性、工程計画の妥当性、技

術者配置計画の妥当性、業務に対する取組意欲

課題についての提案【審査のウェイトは6分の2】

提案の的確性、提案の独創性、提案の実現性

①センター地区の諸施設及びキャンパスモールやキャンパスコモンとのつながりに  
配慮した提案

②東側及び西側からのキャンパスへのアプローチを見据えた大学の顔作りの提案

③施設の配置計画についての考え方に関する提案

④施設の特性を考慮した効果的な環境負荷低減に関する提案

### (3) 選定委員会による審査

学識経験者及び九州大学職員で構成する九州大学建設コンサルタント選定委員会において、  
全員参加のもと審査を行った。

## 4. 参加資格の確認

### (1) 参加資格の確認の概要

参加資格の確認は、参加表明者が説明書等に示した参加資格を有していると認められるかを  
審査するものである。

### (2) 応募状況及び参加資格の確認

平成24年 6月 8日までに6者の応募があった。参加表明者より提出された参加資格確  
認申請書類について資格審査を行った結果、いずれの参加表明者も説明書等に示した参加資格  
を満たしていることを確認した。

## 5. 提出要請者の選定

### (1) 提出要請者の選定の概要

技術提案書の提出要請者の選定を行うため、参加表明者に対して、「担当予定技術者の能力」  
及び「技術提案書の提出者の能力」について技術資料を求め、選定基準に従って審査を行った。

### (2) 提出要請者選定結果

審査の結果、6者全て提出要請者として技術提案書の提出を要請した。6月18日に書面に  
より通知し、提出要請者を閲覧により公表した。

技術提案書の提出要請者

株式会社石本建築事務所

株式会社三菱地所設計

株式会社日本設計

環境デザイン研究所・安井建築設計事務所共同設計企業体

ペリクラークペリアーキテクトジャパン・NTTファシリティーズ設計共同体

株式会社久米設計

## 6. 技術提案書の特定

### (1) 技術提案書の特定の概要

技術提案書の特定を行うため、提出要請者に対して、「業務の実施方針」と「課題についての提案」について技術資料を求め、評価基準に従って審査を行った。

### (2) ヒアリングの実施

平成24年8月7日（火）14：00から、6者に対しヒアリングを行った。ヒアリングは選定委員に会社名・設計共同体名を伏せた形で、1者につき技術提案書の内容の説明を10分、質疑応答を15分、の計25分で行った。

### (3) 技術提案書の特定

「担当予定技術者の能力」、「技術提案書の提出者の能力」、「業務の実施方針」及び「課題についての提案」についての技術資料及びヒアリングの結果を踏まえ、評価基準に従って6者の技術提案書の評価を行い、特定を行った。

### (4) 技術提案書の特定結果

技術提案書の特定の結果は、次ページのとおりである。

株式会社石本建築事務所の技術提案書が最高得点であり、株式会社日本設計の技術提案書が次点であった。

建設コンサルタント選定委員会 技術提案書評価集計総表

評価項目	配点	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
担当予定技術者の能力	120	88	78	79	80	74	94
技術提案書の提出者の能力	60	48	48	48	48	48	48
業務の実施方針	60	37.2	34.2	30.2	39.7	43.7	36.2
課題についての提案1	30	17.2	24	21.7	16.5	11.2	8.2
課題についての提案2	30	21.7	21.7	18	17.2	18.7	12
課題についての提案3	30	18	22.5	23.2	21.7	18	14.2
課題についての提案4	30	23.2	17.2	22.5	18	17.2	12
合計	360	253.3	245.6	242.6	241.1	230.8	224.6
順位		1	2	3	4	5	6
特定		○	次点	×	×	×	×

ア（特定者）株式会社石本建築事務所

イ（次点者）株式会社日本設計

## 7. 閲覧

特定された技術提案書（参加表明書を含む）及び九州大学建設コンサルタント選定委員会の委員名簿は、閲覧により公表する。

閲覧の期間、閲覧場所、閲覧時間は次のとおりである。

閲覧期間 平成24年 8月 9日（木）から平成24年 8月20日（月）まで

閲覧場所 〒812-8581

福岡県福岡市東区箱崎6丁目10番1号

九州大学施設部施設企画課工事契約係

電話番号092-642-2214

閲覧時間 9時00分から17時00分まで。

（ただし、土曜日、日曜日及び祝日は行なわない。）

## 8. 審査講評

### (1) 技術提案書の特定

各評価項目により技術提案書を審査した結果、付与した点数（満点 360 点）の合計点が最も高かった株式会社石本建築事務所の技術提案書を特定した。

### (2) 審査講評

#### (1) 総評

いずれの提案も各参加者が意欲的に取り組んで、的確性と独創性が十分に発揮された提案であった。

今回作業に取り組んでこられた株式会社石本建築事務所はもとより、本件業務に関心を持ち、技術提案書の作成等に貴重な時間と努力を費やされた応募各社に対して深く感謝申し上げます。

#### (2) 特定された技術提案書等の講評

##### (特定) 株式会社石本建築事務所

担当予定技術者の実績及び能力を含め、全評価項目に渡り高得点が付与され、バランスのとれた提案であった。

業務の実施方針については、学府・研究院制度に基づき建設された施設群を検証するなど、キャンパスマスタープラン2001の趣旨を理解し、本社と九州支所の合同チームによるユーザーとの対話を重視した設計体制の提案がなされている。

課題に対する提案については、与条件を十二分に理解し文系地区基本設計に相応しいものとなっている。

##### (次点) 株式会社日本設計

全評価項目に渡りほぼ高得点が付与され、バランスのとれた提案であった。課題に対する提案については、様々な工夫が見られ高い評価を得た。